

**ジャワ・ヒンドゥー王国の衰退と
インドネシアにおけるイスラム王国の勃興**

目次

前文	1
編集者まえがき	3
前書き Dr. Asvi Warman Adam 著	5
序文	9
第一章 マジャパヒトの王の系譜	17
第一節 マジャパヒト初期から Hayam Wuruk まで	19
第二節 Adityawarman とマジャパヒト諸王との関係	21
第三節 Hayam Wuruk からマジャパヒト崩壊まで	34
第四節 宰相の系譜	38
第五節 マジャパヒト諸王の系譜	40
第六節 マジャパヒト王の一覧表	44
第二章 原史料	47
第一節 Babad Tanah Jawi	49
第二節 Serat Kanda	58
第三節 スマランの三保洞廟の資料	64
第四節 紹介文の序文概略	69
第五節 Talang 廟からの資料	78
第六節 ポルトガルの資料	82
第三章 人物の特定と歴史の進行	87

第一節	華人移住の背景	89
第二節	歴史上の人物の特定	92
第一項	Arya Damar/Jaka Dilah	92
第二項	Raden Patah/Senapati Jimbung/Panembahan Jimbun .	94
第三項	Raden Kusen/Adipati Terung	98
第四項	Raden Rahmat/Sunan Ngampel	100
第五項	Sunan Kalijaga と Sunan Gunung Jati	102
第六項	Sunan Bonang と Sunan Giri	106
第七項	チャンパ姫(Putri Campa)	107
第八項	Kertabhumi と Girindrawardhana	109
第九項	Raden Trenggana	111
第十項	Adipati Unus	114
第十一項	Arya Teja	119
第十二項	Sunan Gunung Jati	121
第四章	列島地域でのイスラム国	127
第一節	列島での最古のイスラム国	129
第二節	マラッカ港市	139
第三節	15 から 16 世紀にかけての交易ルート	141
第四節	マラッカからのイスラム伝播	143
第五章	東南アジアにおけるイスラムの宗派	151
第一節	シーア派	153
第二節	シャフィー派	158
第三節	ハナフィー派	159

第四節	明王朝時代におけるイスラムの発展	164
第五節	ジャワ島のハナフィー派イスラム	165
第六章	マジャパヒト王国の衰亡	169
第七章	Demak イスラム王国の建国	187
第一節	Masjid Syukur	189
第二節	スマラン町の建設	190
第三節	Masjid Demak の完成	192
第四節	マジャパヒトの都の運命	193
第五節	ポルトガル人の航海	197
第六節	マラッカイスラム国の衰亡	201
第七節	マラッカ都市の壊滅	204
第八節	ジャワからの攻撃	206
第九節	香料国への航海	208
第十節	マジャパヒトとの関係	210
第十一節	Demak と Sunda との関係	211
第十二節	Faletahan に関して	216
第八章	Demak 王国の衰亡	225
第一節	Demak 国の衰退	227
第二節	家族内紛争	229
第三節	Arya Penangsang と Jaka Tingkir との関係	231
第四節	宗派の変遷	233
第五節	Wali Songo (九人の聖者)	238
第六節	Demak のサルタンの系譜	244

第九章	胡椒交易争奪戦とマラッカ海峡	245
第一節	Pajang-Mataram サルタン王国.....	247
第二節	オランダ人のインドネシアへの来航.....	252
第三節	標的としてのポルトガル人.....	258
第四節	大アチェ(Aceh Raya)の建国.....	260
第五節	オランダの姿勢.....	264
第六節	ポルトガル人の闘争意欲の衰亡	267
あとがき	273
訳者あとがき	275
人名対照表	276
カタカナとアルファベット漢字対照表.....		278
年表.....		
Wali Songo から新マタラムまでの系譜.....		
シンゴサリとマジャパヒト王の系譜.....		

註

脚注で(訳)とあるものは訳者のつけた註。その他は原文通り。ただし、和訳に際して不要と思われた原文中の脚注は省略した。

本文中の図表と引用文献は原文になく、読者の理解を深めるために訳者が追加したもの。

文中の<>でくくった番号は原著のページ数をしめす。